

第7分科会 「現職教育」 運営概要

【研究課題】

教職員の人間性と専門性を高め、意識改革を促す現職教育と校長の在り方

【リーダーシップの視点】

- 1 教職員としての資質や能力を高め、指導力と意識改革を促す研修の充実
- 2 確かな展望と変化の時代に対応でき、次代の学校を担うミドルリーダーや管理職の育成

I 分科会研究協議の運営計画

【リーダーシップの視点1について】

- ・学校力を高め、児童を目指す姿に育てていくために、教職員の資質・能力の向上は不可欠なものである。しかし、個々の教職員が個別に取組むだけではその効果は薄い。そこで、個々の力を集団に昇華し、組織で取組むことが何より重要である。そのためにも、個と集団をスパイラルに高めていくような校長の具体的な取組は、どう在ればよいのかを明らかにしていく。
- ・昨年まで第5分科会として位置づけられていた現職教育の旧視点、1, 2が統合された視点となっており、研修の充実と組織創りという2方向の取組みがリーダーシップの視点1となっている。

【リーダーシップの視点2について】

- ・今年度から新たに設定された視点である。今後5年以内に訪れる教職員の大量入れ替わりを目前にして「若返っていく学校」を適切に運営していくための人材育成は急務である。従来のようにミドルリーダーを育てることに加えて、教職員のマナーも含めた指導力や参画意識の醸成に校長としてどのように取組むべきなのかを明らかにしていく。

【討議の柱】

- ① 職員の意識改革や醸成を図る場の設定を図る校長の関わり方
- ② 次代を担う職員の育成に関わる校長の在り方。(校内での関わり・地域での動き)

II 昨年度までの課題 (両年度ともに 本年度視点1に関わってのみ)

～ 釧路・弟子屈大会から ～ (平成23年度)

- ・新しくなった学習指導要領の取組みを契機に意識改革が図られてきた。
- ・管内、町内組織を活用した研修の場も効果的である。
- ・新たな制度に伴う研修の場を意図的、計画的に校長が設定することも大切である。
- ・校長として教職員への指導力・企画力・調整力の重要性が明らかになった。
- ・教職員の意識や能力の変容を捉え、学校経営の充実につなげていく方策を明確にする。
- ・教頭会と共通の認識を持ち、現職教育に取組んでいく必要性。
- ・服務規律の保持を意識改革につなげる。

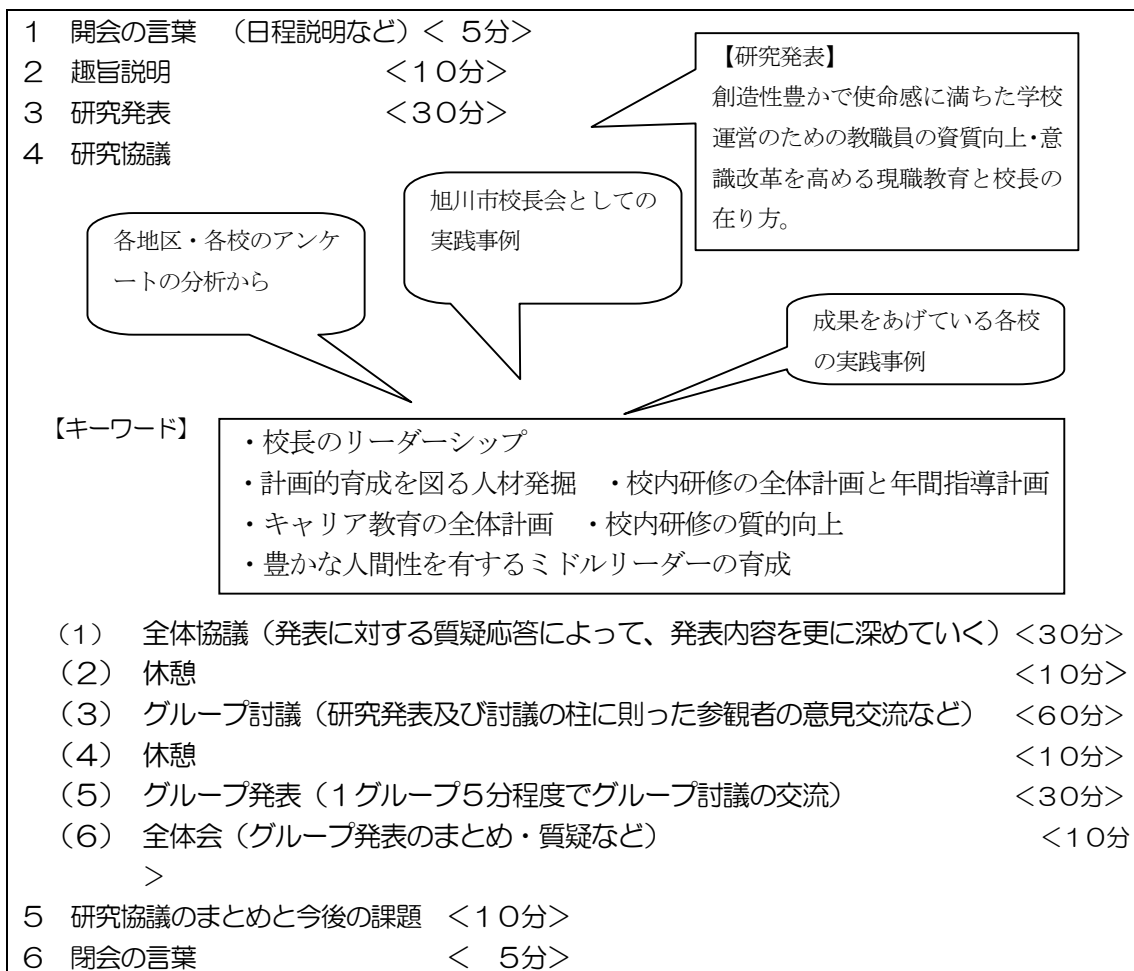
～ 上川大会から ～ (平成24年度)

- ・研修における個人研修計画書の作成と各種研修会への参加奨励。
- ・学校評価と職員評価制度のリンク
- ・校長会経営部会による事例集の作成と配信。
- ・服務規律の遵守に関する研修の実施。

Ⅲ 研究発表の概要

- 研究発表者 旭川地区 旭川市立雨粉小学校長 荒木 豊志
発表題 創造性豊かで使命感に満ちた学校運営のための
教職員の資質向上・意識改革を高める現職教育と校長の在り方
- 視点 (1) 教職員としての資質や能力を高め、指導力向上と意識改革を促す研修の充実。
(2) 変化の時代に対応し、確かな展望をもって次代の学校を担うミドルリーダーや管理職の人材育成。
- 発表の主張点
- ・学力向上、基礎基本の定着を図るための校内研修のあり方
 - ・校長のリーダーシップを発揮する要素の一つとしてのキャリア教育の充実。
 - ・柔軟かつ迅速な対応力と豊かな人間性を有するミドルリーダーの育成
 - ・管理職を目指す人材発掘と意図的、計画的育成。

Ⅳ 協議の流れ (13:00 ~ 16:30)



(文責: 余市町立沢町小学校 佐藤 寛之)

